渡良瀬遊水地

ラムサール登録10年考察

小山で記念講演やシンポ

22-5-14 下野

【小山】渡良瀬遊水地のラムサール条約登録から7月で10年になるのを踏まえ、市などで構成する渡良瀬遊水地保全・利活用協議会や市民団体が相次いで記念イベントを開く。10年間を振り返り、成果と課題を検証するとともに、活用の在り方などを話し合って遊水地の未来を模索する。

成果検証、活用法を模索

渡良瀬遊水地は2012年7月3日、水鳥の生息地として国際的に重要な湿地を守るラムサール条約に登録された。湿地再生が進み、生物多様性のシンボルとも言えるコウノトリが飛来。2年前からはひなが生まれるようになった。その10年間を考察する。

まず、「小山の環境を考える市民の会」が22日午後1時半から、市中央公民館で講演会「渡良瀬遊水地の今」を開く。同会代表で「ラムサール湿地ネットわたらせ」の代表も務める楠通昭さん（84）が講演する。入場無料、予約不要。

同ネットは、登録を目指し署名活動を展開する前身団体が06年に発足。登録への原動力となった。

市などによるシンポジウムは浅野正富市長が13日の定例記者会見で発表した。登録日である7月3日、市文化センターで開く。シンポジウムのテーマは「ラムサール条約湿地の未来」。第1部は協議会が主催し、関係者による活動報告やパネルディスカッションを予定する。第2部は市の主催で、兵庫県豊岡市に拠点を置く「日本コウノトリの会」会員を先生役に、小学生がコウノトリの野生復帰について学ぶ公開授業を展開する。

定員200人。6月から市のホームページなどで申し込みを受け付ける。

遊水地 ラムサール登録10年

官民の保全活動継続を

小山で講演会

下野 22-5-23

【小山】渡良瀬遊水地のラムサール条約登録10周年を記念した講演会が22日、市中央公民館で開かれた。登録運動を主導した市民団体「ラムサール湿地ネットわたらせ」の楠通昭代表が登壇し、遊水地とその周辺の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、官民一体となった継続的な保全活動の必要性を訴えた。

同ネットのメンバーである「小山の環境を考える市民の会」が主催。市民ら約30人が耳を傾けた。

楠代表は、登録を機に国や周辺自治体、自然保護団体が治水と湿地保全・再生の両立を目指し協力する体制ができたと評価。湿地再生によるコウノトリのひなの3年連続誕生を「快挙」と喜んだ。

一方、再生のため掘削した区域にヤナギが樹林化し、すみ着いたイノシシが湿地を荒らしたり、セイタカアワダチソウなどの外来種が繁茂したりするなどメンテナンスに課題があると指摘。官民の役割を明確化し、10年後にはコウノトリと同じく湿地生態系の頂点に立つトキが共に舞う地を目指すべきだと述べた。

講演に先立ち、同ネットの事務局長だった浅野正富市長があいさつし、「登録されてまだ10年。これから何十年も、関係者が一体となって関わる必要がある」と息の長い取り組みを呼びかけた。

（河又弘子）

講演会で成果と課題を語る楠代表